



会報 2025 年 3 月号

日本ニュージーランド協会 (関西) 創立 1970 年 11 月 11 日

New Zealand Society of Japan, Kansai

Designing Future Society for Our Lives

いのち輝く未来社会のデザイン

4 月 13 日から 10 月 13 日の 184 日の間、大阪市の夢洲で 158 の国・地域、9 の国際機関、13 の企業グループなどが参加した大阪・関西万博が開催されます。

当協会は、1970 年に千里で開催された大阪万博の年に創立されお陰様で本年 55 周年を迎えます。残念ながら今回、ニュージーランドは参加しませんがキーウイの人々も多く日本に来られますので会場や観光地で彼らと交流する機会もあると思います。



(アオラキ)



(オークランド)



(マオリの彫刻)



(牧場)

臨時例会

- 4 月 6 日「ニュージーランド・フェスティバル」堺
- 4 月 12 日「ニュージーランド学会講演会」神戸
- 5 月 24 日「ニュージーランドフェア」箕面

(写真提供 松沼清司氏)

第 295 回例会 (会員総会・懇親会) 5 月 17 日 (土)

【事務局】日本ニュージーランド協会 (関西)

〒558-0004 大阪市住吉区长居東 2-17-28, 407

電話・Fax:06-6607-2112

<http://nzsocietykansai.com> E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

■ 新年度早々にニュージーランドをテーマにした行事があります。当会では臨時例会として合流しますのでお気軽にご参加下さい。

1. 「ニュージーランドフェスティバル」 堺市とウェリントン市が友好都市となり 30 周年を記念に堺音楽祭主催で開催。

4月6日(日) 13時～16時 イオンモール堺鉄砲町 赤レンガ広場

ハカ・和太鼓・神楽などのパフォーマンス、NZ ワインなどの物販・留学・観光案内。

当会もミニPR コーナーを設けます。参加費・予約：不要

アクセス：南海本線七道駅（難波から約 12 分）下車スグ

2. 「ニュージーランド学会講演会」 4月12日(土) 13時～16時

兵庫県立兵庫津ミュージアム アクセス：神戸地下鉄海岸線中央市場駅下車スグ

- 日本ニュージーランド交流史序説 田辺真人 (NZ 学会顧問)
- ニュージーランドと日本ラグビー交流史 新井正彦 (江戸川大学客員教授)
- 姉妹都市ハット市との交流 阿部一郎 (箕面ハット市友好クラブ会長)
- ニュージーランドワインと日本 栗本明博 (シニアソムリエ)

参加費：500 円 (持参)

出席ご希望者は当会へメール・電話/Fax でお知らせください。

メール：nzsjk@yahoo.co.jp 電話/Fax: 06-6607-2112

3. 「箕面市ハット市国際協力都市提携 30 周年記念ニュージーランドフェア」

5月24日(土) 11時～17時 みのおキューズモール・ステージ周辺

記念式典・日本伝統文化と NZ パフォーマンス披露・NZ 食品などの販売

参加費・予約：不要

■ 第 295 回例会 (会員総会・懇親会) 5月17日(土) 10時～13時 30分

中央電気倶楽部会議室 創立 55 周年の総会ですから NZ 関係のビデオ上映

ミニクイズ・ミニバザーなども計画しています。

総会案内・資料等は 4 月中旬に送付いたします。多数のご出席をお待ちしています。

■ ご提案お願い

本年、当会は 55 周年を迎えますが、協会運営・例会等につきご提案をお寄せください。

■ 第 293 回例会（京都府立植物園）報告

今年の秋の遠足は、天候に恵まれた10月26日（土）に京都府立植物園でした。北山門入口に14名が時刻どおり集まりました。園は1924年に開園され今年で100周年を迎える日本最古の西洋式で24ヘクタール（東京ドーム5ヶ分）の広さがあります。ハス池・東屋・桜林・竹林・神社・温室等々バラエティーに富んだ植物園です。

ボランティアガイドの関野さんの案内で楽しい解説を聞きながら散策しました。



（散策の様子）

カツラの木は、落ち葉からのみマルトールという成分が発揮され、カラメルのような甘い香りがするそうです。残念ながらこの日は匂いませませんでした。木肌がきれいなオレンジ色のバクチの木は、樹皮がうろこのように剥がれるため、賭け事に負けて着物を脱がされ続ける博徒にたとえ、バクチノキ、とは何ともユーモラスなネーミングですね。メタセコイアは化石が見つかった後に中国で生きている木が発見され、生きた化石植物と呼ばれています。

花菖蒲園では、テレビ番組の「こころ旅」で始めて知ったヌマスギの呼吸根を見ることができました。ヌマスギは別名ラクウショウ（落羽松）と呼ばれ、葉がまるで鳥の羽根のようです。落葉するところを見てみたいものです。

草丈を低く育てる、福助仕立ての菊花展をみ

て、フジバカマの鉢うえを売店で買いました。

ハス池を廻って、なからぎの森内にある半木神社にお参りしました。古くは流木（ナガレギ）神社といわれ、上賀茂神社の境外末社とされており、現在は植物園の鎮守となっています。伝承によれば鴨川の洪水により、うきたの森に祀られていた三座の内的一座が流され、流れでた流木が留まったところに流木を使って建立されたという一方で、もともと絹織物が発達していたこの地に賀茂族（秦氏）が職業守護の神として天太玉命（あめのふとだまのみこと）をお祀りしたという説があるようです。境内は狭め、お社は小さめ、静かで雰囲気の良い神社です。参加されたマシウスさんにはご専門の芋が植わっているところで解説をしていただきました。

四季、彩の丘では、ススキの葉で指を切るのは土中の珪素の化合物が葉のフチについているからとか、ビールづくりにかかせないホップは受粉していない雌株の穂花だけを使うなど豆知識もいっぱい教えていただき、関野さんとはここでお別れしました。久し振りに土のにおいと森の香りの中をたくさん歩きました。

昼食は北山門入口そばの美味しいイタリアンのお店（IN THE GREEN）で、皆さんでそれぞれ好きなものを注文しました。

午後からは、1992年に造成された大きな観覧温室を見学しました。世界中の植物が集められています。その数約4500種、館内は8つの部屋に分かれております。暑い部屋、涼しい部屋、昼夜逆転室などに珍しい貴重な植物がいっぱいです。温室入口前の池にはオニバスが浮いています。バオバブの木、砂漠に咲く色とりどりのサボテン、キソウテンガイ、暗闇に咲く真白の夜顔、フウリンブツソウゲの花、オオゴチョウの花などきりがありません。

客員会員の酒井ケイツ・みかさんの従兄の平塚さん（技術課勤務）が途中から来られてご案

内いただきました。今は何の痕跡も残っていませんが、食料不足のため戦中は畑に転用されたこと、進駐軍が11年間も占領していたこと、樹木を1万9千本も伐採され兵舎を造設したこと、施設の老朽化、来園者に若い世代が少ないこと、若手職員が増えず技術の継承が課題であることなどを伺いました。植物園は、職員32名、ボランティア約150名で表とバックヤードを管理されているようです。2時半頃温室の前で解散しました。当日、1万歩ほどあるいたようで、楽しい一日でした。機会があれば四季おりおりに訪問したいと思います。参加された皆様、お疲れさまでした。有志の方は、オプション見学先の京都工芸繊維大学の資料館にも見学に行かれました。



(温室前)

当日買ったフジバカマは大きな鉢に植え替えベランダに置いています。いつかアサギマダラが南下の途中に寄ってくれるのを待ちます。

(埴 幸子)

■ 美術工芸資料館を訪ねて

京都府立植物園見学例会のオプションとして、京都工芸繊維大学「美術工芸資料館」見学が企画されており、私も参加させていただくことにした。

当館は、1981年10月3日に開館し、所蔵さ

れている美術工芸資料は絵画、彫刻、金工、漆工、陶磁器、繊維品、考古品等多岐にわたる。前身の一つである京都高等工芸学校の1902年(明治35年)創立以来の収集品が基盤となっており、2019年3月現在の収蔵品数は約54,000点である。

館内に足を踏み入れると、まず感じたのは静寂さとその荘厳さである。静謐で落ち着いた雰囲気、心音が安らぐ。一階展示ホールは壁面には、19世紀末から20世紀前半までのフランスやドイツ、その他欧州のポスターコレクションが展示されており、その迫力に圧倒される。往時を彷彿とさせる独特なデザインと色使いが印象的である。二階の一部の展示室からは比叡山やおやかな山の峰が遠望できる。

浅井忠(ちゅう)の作品「武士山狩図」は残念ながら展示されていなかったが、画像で見ると、光と色が柔らかく融合し、独特の質感を醸し出している。細部に至るまで緻密に描かれ、その独自の描画法には舌を巻く。

展示室を巡る中で、多くの工芸品や他の芸術作品も目にする事ができた。中でも建築模型の精巧さには驚かされた。特に印象に残ったのは、日本の伝統的な染色技術を用いた織物や、人の手による細やかな技術で巧みに作り上げられた陶器である。それらの作品が持つ美しさと技術の高さ、そして繊細な職人技に深く感動した。

館内では学生たちが熱心に鑑賞し、工芸技術の歴史や技法を学ぼうとする真摯な姿を見て、未来の才能溢れる芸術家や建築家たちが育っていく様子を実感した。

なかば駆け足で館内見学を終え外に出ると、四季折々の自然が美しく彩るキャンパスが目の前に広がる。秋の紅葉がゆっくりと色付き始め、季節の移ろいを感じさせる。赤や黄の葉が、自らの終焉をそっと告げるかのよう、どここな

く寂しげに風に揺れている。そんな中、過去から現代へと続く作品を辿りながら散策するだけで心が和む。

美を堪能した後の心地よい余韻に包まれながら、キャンパスを後にした。日本の芸術と工芸の豊かさ、そしてその継承の重要性が心に残る。現代の技術と伝統の融合が次世代にどのような影響を与えるのか、ふと頭をよぎった。そして、資料館の展示は単なる美術品のコレクションではなく、それぞれの作品が持つ背景や制作者の思いを伝えるものであるという思いに至った。

「建築」は創造的な産物と考えれば芸術として理解すべきか、視覚的要素が重要視されればアートか、美的要素が強調されれば美術か。今回、展示されている作品を見て、とりとめのないことを考えてしまった。

「美術工芸資料館」はその名のとおり、美術と工芸の魅力を存分に味わえ、理解を深める場所であると今回の見学で実感した。審美眼とは無縁の筆者にも、美しいものを素直に美しいと感じる細やかな感性が少しは育まれたかのような気がする。

みなさんも機会があれば、ぜひ足を運んでみてください。直接触れる芸術は格別です。工芸の魅力を再発見し、素晴らしい感動が期待できそうです。

大学の所在地と連絡先は以下の通りです。時折、特別展が開催されているようですので、訪問の際は事前に HP を検索してみてください。キャンパス内の食堂は午後 1 時から一般にも開放されていますので、ご利用いただけます。

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

- 所在地：京都市左京区松ヶ崎橋上町
- 電話：075-724-7924
- アクセス：市営地下鉄「松ヶ崎」駅下車、1 番出口から徒歩 8 分

- ホームページ：<https://www.museum.kit.ac.jp/information.html>

ご参考までに《武士山狩図》を添付いたします。



浅井忠 ASAI Chu (1856-1907) 《武士山狩図》
Warrior Hunting Scene 1905 年 AN.3279
1,340x1,950m/m

(加藤 進)

■ クリスマス例会（294 回例会）報告



(食事会)

昨年 12 月 7 日（土曜日）中之島のリーガ・ロイヤルホテルのフレンチレストラン（The Ray）にてクリスマス例会を開催致しました。例年、神戸倶楽部で開催いたしておりましたが、建て替えのため使用出来ず、関西の迎賓会と呼ばれ皆様お馴染みのロイヤルホテルでの開催となりました。例会はお昼でしたが、夜には美しいイルミネーションが堂島川に沿って眺めることができるという説明がありました。当日は 18 名の参

加者が、魚料理にはニュージーランド産のサーモン、デザートはパブロワとニュージーランドを意識して考えられたフルコースを堪能致しました。その後は、例年通りプレゼント交換・NZクイズ・ビンゴゲームと和やかに楽しい時間を参加者の皆様と共有でき余韻を残しつつ会場を後にしました。バザーもすべての品が完売、売上金は協会の運営費とさせていただきます。ご協力有難うございました。

(山田 輝子)



(集合写真)

■ 臨時例会（大坂城築城440年～城の歴史と見所～）に参加して

中央電気倶楽部主催の公開講演会（2月21日）に当会は臨時例会として合流したので出席し、講師の千田嘉博（名古屋市立大学教授）氏の話の内容を私の理解しうる範囲で整理追補しまとめたものです。

テレビの城特集などでおなじみの千田氏については、生き生きと、現地での詳しい説明をされている姿が、すぐに目に浮かんできます。千田氏について、資料によると城好きのきっかけとなったのは、中学1年生の夏休み、小豆島・淡路島旅行に向かう途中、船に乗り換えるため新幹線で姫路に着いた時、初めて姫路城を見、その美しさ、力強さに心を奪われたからだそうです。私事ですが、私も建築を志したのは、小学生の時国立病院の官舎が姫路城の堀の内側、に

あったため絶えず城を見て育ち、機能の追求と美の追求の融合を感じていたからかもしれません。脱線してしまったので、千田氏の話に戻ります。千田氏の、外国の城研究については、30歳のころドイツ留学、続いてイギリス留学をされ、これを機にヨーロッパの城も関心を持つようになったそうです。講演が始まり、まず千田氏が話されたのは城の面白さは、『石垣など面白さを自分で見つけてください』という事でした。確かに、城を見れば見るほど、形状の美しさ、歴史的な背景、構造的な興味、機能の面白さ、城主の価値観等、どんどん興味が広がってゆきます。

講演で話された内容で興味深かったことを列記します。

● 現代私たちが見ている大阪城について

二代將軍徳川秀忠が築城した城（大阪夏の陣で焼失した豊臣の大坂城を埋めてその上に築城したもの）の石垣の上に豊臣の大坂城を推測し（資料が乏しいため）鉄骨鉄筋コンクリート造で1931年（昭和6年）建築したもの。1953年（昭和28年）大坂城域一帯が国指定史跡（史跡大坂城跡）となり1955年（昭和30年）大坂城域一帯が国指定特別史跡（特別史跡大坂城跡）となる。1997年（平成9年）天守閣が、国の登録有形文化財となる。

● 元々の入り口の西側に、バリアフリーのためのエレベーターからの侵入口の設置と、有形文化財指定の天守閣の改修との関係

有形文化財に指定されてからの変更は難しいのですが、このエレベーターから天守閣への侵入のための開口は、豊臣の大坂城の廊下と天守との接続部分であり本来開口がある部分なので問題ないと考え

られている。ちなみに今は天守閣と呼んでいるが、当時は天守と呼ばれていた。



(大阪城)

- **桜門**

門の内側櫓形の正面に巨大なたこ石（一部錆が出てこれがたこに見える）がありその奥に天守閣の正面が見え、来場者に威厳を示す。

- **真田丸について**

豊臣大坂城は北・東・西は大きな川や湿地又は海に囲まれていて、一番攻めやすい方向は南側でした。この方向の防御を固めるために惣構（そうがまえ）の外に真田信繁（幸村）により設けられた出城。この真田丸と真田信繁の作戦により、冬の陣では南側からの攻撃は撃退された。しかしその後の和睦により惣構も、真田丸も埋め立てられ、撤去された、

- **草案の茶室**

豊臣大坂城北端山里丸にあった茶室、現存しないが同じころ造られた、佐賀県の名護屋城山里丸の復元された草案の茶室は、天井・壁・床が竹でできており、座る部分には円座がおかれている。

- **豊臣大坂城の極楽橋**

屋根付き一部2階の豪華な橋であった。現在は滋賀県竹生島に唐門が移築されている。

- **大坂城と大阪城の表記の違いについて**
豊臣秀吉が築城したものは大坂城。この「坂」の字が「土にかえる」という意味になるので、江戸時代から「阪」の字が使われだしたらしい。明治になって大阪府が設置されたので「大阪城」となった。
- **大坂城の惣構えの南部分は空堀だったか**
この中央部分は今の上町台地（6000年～7000年前は海の中の半島）なので土地が周りより高く、他の部分のように水をためることができなかったのではないか、と思われる。

(山下 誠二)

■ 原稿募集中

NZに関する情報・旅行記などご寄稿をお願いします。6号号の締切は5月23日です。

■ HPのリニューアル、会報編集

ご協力いただける皆さんを募集中です。

■ 協会運営・例会へのご提案をお寄せください。

■ 新会員募集

NZに関心あるご友人・知人をお誘い下さい。

■ 50周年記念マグカップ

在庫が少なくなりましたがご希望の方には郵送・手渡しで配布いたします。電子レンジ耐用です。1個1000円、送料800円

